

調査報告書

令和 8 年 10 月 14 日

小牧市議会議長 加藤 晶子様

会派名 無会派
代表者氏名 木村 哲也

調査を行いましたので、その結果を報告します。

記

1 調査日

令和 8 年 10 月 9 日（水）から 10 月 9 日（金）

2 調査先及び調査項目

（１）調 査 先：山形県東根市

調査項目：総合保健福祉施設さくらんぼタントクルセンター

3 参加議員

木村 哲也 （１名）

4 調査内容

① 日時

令和 8 年 10 月 9 日（金）13時から14時まで

② 訪問先 総合保健福祉施設さくらんぼタントクルセンター

③ 説明者 東根市役所健康福祉部こども家庭課 早坂 康課長

④ 調査項目

・保健福祉医療・子育て支援の複合施設として建設された経緯・施設計画

- ・子育て支援、保健福祉、医療等各エリアの機能
- ・施設の利用状況および市民の評判
- ・現状の課題とそれらに対する対策
- ・今後の施設運営の方針

⑤ 視察先の選定理由や目的

子育て支援、保健福祉、医療に跨る複合施設の有用性
本市の多世代交流プラザ・こども未来館の運営の参考

⑥ 視察項目の概要説明（導入経緯・内容・実施状況・効果・課題等）

● 導入経緯

「市民と協働での施設整備」 建設前は、母子センター、休日診療所、市立保育所等の保健福祉施設の老朽化や機能不足が課題に。また、新しいまちづくりの機運の中、市民が生涯にわたり安心して健やかに生活できるよう、新たな保健福祉の拠点施設を求める声の高まりを受け、「東根すこやか・やすらぎの郷」構想のひとつとして整備を進め、平成 17 年 4 月 1 日にオープン。

建設にあたり、基本構想策定のため市民を一般公募し、市民検討委員会を計 10 回開催。平成 13 年 3 月策定。事業設計プロポーザルを経て、建設工事期間は約 1 年半。市民参加の運営方法の検討。公募により、たくさんきてねという意味の総合保健福祉施設「さくらんぼタントクルセンター」と名称決定した。

建設に要した経費総事業費：約 33 億 4 千万円

（国庫補助金：97,750 千円、県費：48,874 千円、
地域総合整備事業債：2,023,100 千円、起債：194,400 千円、
ふるさと創生事業基金：89,370 千円、その他：883,591 千円）

● 内容

施設概要

用途：総合保健福祉センター及び子育て支援施設（複合建築物）

所在：東根市中央一丁目地内（市有地）

敷地面積：16,947.05 m²

施設規模 建築面積：4,829.59 m² 延べ床面積：8,572.82 m²
構造：鉄筋コンクリート造 地上 4 階建 附帯施設：駐車場 230 台
施設の特徴

～6 つのエリアがある複合施設～

- ① 子育て支援エリアひがしね保育所（定員 150 名規模）、ファミリーサポートセンター、子育て支援センター、遊びセンター（けやきホール）
- ② 保健エリア保健センター（総合健診室、調理実習室、栄養指導室）
- ③ 福祉エリアミーティングルーム（1～7）、教養娯楽室（和室）
- ④ 医療エリア休日診療所
- ⑤ 共有エリアふれあいプラザ、大ホール（1 階 352 席（身障者席 2 席）、2 階 148 席）、視聴覚室（70～100 人）
- ⑥ 事務エリア東根市健康福祉部 健康推進課、こども家庭課

●実施状況

開館時間：8:30～22:00

行政窓口：8:30～18:30

子育て支援センター、けやきホール：9:00～18:30

休日診療所（日曜日・祝日）：9:00～16:00

休館日：毎月第 2 水曜日（8 月のみ第 4 水曜日）

利用料金

大ホールほか市民への開放部分は有料※けやきホール無料（市内・市外）

施設運営

大ホールほか開放部分、子育て支援センター

→遊びセンターNPO 法人クリエイトひがしねに運営を委託

【NPO 法人クリエイトひがしね】平成 16 年 11 月 16 日設立認証

市民検討委員会を中心として設立。子育て施策 2 施設（さくらんぼタンクトルセンター・あそびあランド）運営に整備当初から携わる。「遊育」「共育」を実践しながら、子ども・若者の育成に努めている。

ひがしね保育所・ホール舞台器具操作管理→民間に運営を委託

休日診療所→東根市医師会に運営を委託

● 効果

利用状況

タントクルセンター入館者数 累計：6,304,252 人

コロナ前 年 35 万人超の年多く、令和 7 年度 28.9 万人

けやきホール利用者数 累計：2,686,401 人

コロナ前 年 13 ～ 15 万人、令和 7 年度 13.6 万人

ひがしねあそびあランド建設

室内の子どもの遊び場「けやきホール」を有するさくらんぼタントクルセンターが子育て支援の拠点として機能する中、外で思い切り体を動かして遊ぶことができる場所が求められるようになり、建設される。

子連れ世帯、小中高生を中心に極めて高い稼働率を維持。隣接する市外県外からの広域利用も定着。ワンストップの利便性も高い。市役所に隣接し、健診時も子供を遊ばせておけるなど、育児負担の軽減に対する高い満足度を獲得。孤立防止と多世代コミュニティの形成にも効果あり、東根市が「子育てするなら東根市」を市政方針に掲げる象徴的施設となっており、若年ファミリー層の転入を高める直接的な要因として評価されている。

● 課題

開館から約 20 年が経過し、建築設備、空調衛生設備、大型遊具の経年劣化が顕在化。更新費用の確保が中長期的な財政負担となっているが、公共施設等総合管理計画に基づき、長寿命化改修計画を段階的に策定。予防保全型の維持管理へシフトするとともに、国庫補助金や脱炭素推進関連の交付金を活用した改修を進めている。

⑦ 議員からの主な質疑

質 1 NPO 法人クリエイトひがしねは、市の外郭団体のひとつか。

答 1 施設立ち上げ時に設立された、市民による団体で、構成員のお子さんが、成長して構成員になるという良い循環が生まれている。

質 2 けやきホールの利用料は市外無料の方針は変えないのか。

答 2 近隣市町の同様の施設は、有料化しているところもあるが、変更の方針はない。遊具使用時の子どもの怪我は自己責任で理解していただいております、今のところ問題はない。

⑧ 議員の意見

構成する機能は違うものの、子どもや高齢者の居場所づくり、無理のない自然な世代間交流を促す滞留設計がされた、行政の複合施設のあり方は、本市のこども未来館・多世代交流プラザの運営について、良き参考となると考えられる。既に 20 年以上前に気づいていた、本年春に逝去されたという、前市長に敬意を表するところである。

⑨ 考察（小牧市への反映）

上述のように、本市の多世代交流プラザ・こども未来館の運営について、良き参考となる点としては、ひとつに、館の指定管理団体として、近々設立されるという「(仮称) こまきこども若者財団」の、設立後の運営手法などについて、「東根市の NPO 法人クリエイトひがしね」の運営があると考えられる。

また、子どもの怪我は自己責任という方針や、利用料市内市外無料という方針についても、一度参考にすべきところであると思われる。

以上